

地域と融合し、地域とともに 発展する大学を目指して

和歌山大学 学長

瀧 寛和



1. 地域と融合する和歌山大学

和歌山大学が国立大学法人となり、今年度で13年目を迎え、第3期中期目標期間がスタートいたしました。国立大学の法人化の意義は、「自律的・自主的な環境の下での国立大学の活性化」、「優れた教育や特色ある研究に向けてのより積極的な取組の推進」、「より個性豊かな魅力ある国立大学の実現」にあります。国立大学改革プランでは、第3期は、持続的な“競争力”を持ち、高い付加価値を生み出す国立大学になるステージとなっています。

これを受けて、和歌山大学は第3期中期目標の前文において「和歌山大学は、高野・熊野世界文化遺産など豊かな歴史と環境に育まれた和歌山県唯一の国立総合大学として、学術文化の中心としての使命と役割を担い、『地域と融合』し、地域の発展に寄与する学術研究を推進し、地域創生を牽引する人材を育成する。」と表明いたしました。

地域の発展においては、住民の方々、地元の産業・金融機関、自治体等の活躍が主体ですが、本学も、大学として教育・研究を通して積極的に協力・貢献していきたいと思えます。

2. 国立大学の機能強化

昨年6月、文部科学省から国立大学に対して、「国立大学経営力戦略」が示されました。この戦略では、「第3期中期目標期間（平成28年度～33年度）においては、各国立大学の強み・特色を最大限に生かし、自ら改善・発展する仕組みを構築することにより、持続的な『競争力』を持ち、高い付加価値を生み出す国立大学への転換を推進していく。」ことが打ち出されました。そして、経営力を強化するための方策として、大学の将来ビジョンに基づく機能強化の推進のために、「国立大学に求められる多様な役割や様々な期待に応える点を総合的に勘案し、第3期における各国立大学の機能強化の方向性に応じた取組をきめ細かく支援するため、三つの重点支援の枠組みを新設し、取組の評価に基づくメリハリある配分を実施する。」ことになりました。

これにより、各国立大学は、機能強化の方向性として、

- ① 主として、地域に貢献する取組とともに、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で世界・全国的な教

育研究を推進する取組を中核とする国立大学

- ② 主として、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で、地域というより世界・全国的な教育研究を推進する取組を中核とする国立大学
- ③ 主として、卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に卓越した教育研究、社会実装を推進する取組を中核とする国立大学

の三つの枠組みのうちいずれかを自ら選択することとなり、和歌山大学は①を選択いたしました。第3期では、一層の地域貢献と、強み・特色のある分野では、国内外で活躍できる人材育成のための教育研究の推進を強化していく所存です。

3. 地（知）の拠点大学による

地方創生推進事業

文部科学省は、平成27年度から、大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することとしています。そして、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的として「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」を実施しており、和歌山大学は、「わかやまの未来を切り拓く若者を育む“紀の国大学”の構築」事業を申請し採択されました。この事業は、高等教育機関や自治体、金融機関、産業団体等の共同事業として運営しています。

和歌山について深く学ぶ「わかやま学群」科目を整備し、わかやま未来学副専攻を設置して教育を進めています。この講義の演習の目的は、和歌山県内を演習フィールドとする地域での体験実習を通じて、地域の特徴や課題などを知り、地域で活躍する意義を見付けてもらうことです。それにより、卒業後の進路として、地域で活躍する道を選択しやすいようにし、地方

創生に繋がることを期待しています。

4. 地域連携と産学連携

和歌山大学が紀南地域にサテライトを設置して、12年目を迎えます。このサテライトでは、地域の教育拠点として、公開講座に加え、学部開放授業と大学院科目等履修を実施しています。大学院科目等履修では、必要な単位を履修後、入学試験を経て、経済学研究科南紀熊野サテライトコースに入学することができ、本課程を修了すると、修士（経済学）の学位を取得できます。また、大阪南部には、岸和田サテライト（平成18年に設置）を開設しています。このサテライトにおいても公開講座（波切サロン）に加え、学部開放授業と大学院科目等履修を実施し、大学院経済学研究科修士課程（租税法/岸和田）も設置しています。

地域連携・生涯学習センター（平成10年に生涯学習教育研究センターとして設置）は、生涯学習の教育研究を通して、地域課題への取り組みや公開講座・セミナーなどを実施しています。

産学連携・研究支援センター（平成11年に地域共同研究センターとして設置）は、大学と産業界との研究の橋渡しを行い、共同研究や受託研究を通じて、大学の研究シーズの社会への還元に努めています。災害科学教育研究センター（平成22年に防災研究教育センターとして設置）は、災害時の通信技術などの防災・減災技術開発と地域の防災意識の啓蒙活動などを行っています。

また、和歌山における農林業の情報化、農産物加工・食品成分活用、アグリビジネス等の教育研究を進めるために、平成28年4月に、地域活性化総合センター・食農総合研究所を設置いたしました。

さらに、県内の学校を中心とした地域支援を進めるために、教育・地域支援部門を設置いたしました。これは、教育学部が進めてきた「へき地教育」支援の枠組みを利用して、へき地の

学校での教育や行事を通じて、地域とともに学校現場を支える事業をさらに進化させるものとなっています。

上記以外にも、和歌山大学には、各種センター等があり、様々な教育研究の事業を通じてますます地域との連携を強化して参りたいと思います。地域の皆さまにも、本学の各センター等を大いにご活用頂きたいと思います。

5. 地域を継承する拠点として

発展していく大学

各地方にある国立大学は、学生教育の場として、地域の方々とふれあい、地域の諸課題や産業技術の課題を解決していくことで、地方創生に寄与していくことに努めています。人口減少社会では、地域財産が失われることなく、未来へと継承できる人材が求められています。その中で、和歌山大学は、地域の知識資源を知的拠点である大学に蓄積し、新たな未来の地域を創造する人材の育成に向けて注力していく所存です。和歌山の素晴らしい地域財産を、皆様と一緒に力を合わせて未来へと継承し、地域とともに発展していく大学を目指します。